

HAC OB 合唱団 8 月 2 日練習メモ

<Busto Ave Maria>

ブストは 2003 年のアーリーで歌ったことのある団員も多く、前はサラッとやっただけでしたが、今回は 1 時間近くかけじっくりとやりました。

出だしの四小節 ワンフレーズで歌う中で、Maria の ri、Plena の Ple のアクセントに向かってクレッシェンド・ディミニユエンド。またベースの C(ツェー)とソプラノの D(デー)はチャンとぶつかって。12 小節の二拍目のソプラノの A とアルトの G もぶつかって。またアルトはその次の E の音をはっきり主張する。Benedicuta の Be は縦に開いたエ

18 小節の in の i を長めに (すぐに n を言わない) -bus の s は次の小節の頭で

21 小節でア・テンポ、mf。男声ははっきりと入る

23 小節から 27 小節目の Amplio(広い、豊かな、を表すスペイン語)に向かって力強い Cresc.

27, 28 小節の Sancta Maria は『大きな喜びをもってマリアを讃える』

(2003 年版は 26~27 小節をノンブレスにしたが、今回は楽譜通り言葉のカンマ(,)でブレス。28~29 小節はノンブレスにしたので、ソプラノ mater の G の音しっかり横隔膜で支えて! de-i のエは開いたエ。30 小節は全パート dim. バリトンの八分音符はハッキリ

31 小節からの上 3 パートはとなえるように (鋭くならない)、でもハッキリ口を動かす

ベース旋律、33 小節の to-ri-bus の ri の八分音符のオクターブを決めて

34 小節で ppp 34 小節目は改めて mp+(大きめ) nunc の [k] et の [t] はリエゾンしないで離して発音

37 小節目の三拍目 ソプラノの h とベースの A しっかりぶつかって、棒を見て 38 小節目の nos のアクセントを合わせる テナー tre の h の音 大きすぎないように

40~41 小節の Amen は全パートクレッシェンド・ディミニユエンド 42~43 小節の Amen はアルト以外はディミニユエンド

<Orff Ave Maria>

基本的に p(ピアノ)の音楽 『マリアの苦悩というようなものを表現したい』

ユニゾンになる箇所、オクターブで音があう箇所、オクターブの跳躍を効果的に

テナー 23 小節の A が取り難そうだが、ソプラノの A と合わせて

30 小節 この二分音符のみこの曲唯一の f (ベースの o-ra は ra の方が弱い)

32 小節 ベースはアルトの pec-ca より一音高い cis (アルトと同じ音をとりたいくなる?)

ベース 34 小節目の最後のナチュラル G の音を合わせて

38 小節で最初の節、ただし pp 46 小節、50 小節の pp は全パートユニゾン

57 小節からの ppp は殆ど聞えないくらい

63 小節目のテナーの四分音符の gis は少しつく感じではっきりと

<Stravinsky Ave Maria>

テナーの音型はとても自由で ‘おいしい’ ハズ! 譜読み頑張りましょう。

所どころ 2/4 拍子が入ります。 みんなで予習・復習がんばりましょう

ストラヴィンスキーでは『マリアの輝き』といった感じを表現します

<La Cour Hodie〜>

ソプラノ 最初の三小節はAの音を軸に動く（出だしのFはAのポジションで歌いだす）

pだが体を使って歌う

5小節目の二拍目のap-pa-ru-itでソプラノ、アルトの息を合わせる

7小節目 上3パートに合わせて八分音符三つで分けるのでベースは二拍目のウラで入る感じ

9小節 sal-va-torのsalはテヌート気味に（4小節のソプラノも同様）10小節はそのままレガートに歌う

11小節はmfで、のぼりの三連符は一つ一つの重さを感じて

12小節の テナー 二拍目の付点音符ハッキリと

15～16小節 ここだけf、16小節目のソプラノとアルトの三拍目の-eでヒュッと小さくなる

19小節 dicentes(ディチェンテス)：で言葉を言い切る その後のgloria in (excelsis) Deoはノンブレス

24小節の最後の和音 テナー、はずさないで(durで終わる)

<La Cour Ave Maria>

他のパートとこすれる、ハモる、同じ音というのを、楽譜を縦に読んで確認

4小節 ソプラノのEとテナーのDぶつかる

6小節目のple ソプラノのHとテナーのA アルトのFisとベースのEがそれぞれぶつかる

13小節のJe ソプラノのがD アルトがC テナーとベースはオクターブ

14小節のJe アルトがA ベースがH

14小節の-sus ソプラノとベースがオクターブ アルトのGisとテナーのFisがぶつかる

16小節目のテナーの下はバリトンが歌う（テナーが上を歌う）

ベース 15小節目と32小節目の最後の決まる音が違うので意識して(HとA)

音がぶつかる部分は相手パートを意識してやや強めにはっきりぶつける。ぶつかる音同士どちらが強くて弱くても駄目、同じ音量でぶつかること

<La Cour Laudate〜>

Lau-da-teのLauのuは深く、ラオのように

21小節目 f、A tempo 各パートははっきりと

アヴェ・マリアもラ・クールも時間切れの感あり…でしたが、次回、次々回はラターの予定です。

2日にやった曲は9月の後半まで開いてしまうのですが、おぼつかないところはパート毎でも確認をとりながら予習、復習で補いましょう。